

療養通所介護まごころ
2019年運営推進会議 記録

1. 日 時 2019年2月26日（火）13:30-14:30

2. 出席者

氏名	構成区分	職名等
高田 凖子	利用者家族	
三木 秀信	地元住民代表	元御旅自治会会長
坂村 美由紀	知見を有する者	グループホーム鹿島の郷 管理者 療養通所介護まごころ 安全サービス提供管理委員会委員
片山 ひろみ	知見を有する者	(株)まごころケア研究センター高砂 訪問看護ステーション管理者（看護師） 療養通所介護まごころ 安全サービス提供管理委員会委員
入本 慎司	高砂市の職員	
田中 智	開設法人代表	(株)まごころケア研究センター代表取締役社長
坪田 典子	管理者	療養通所介護まごころ管理者・看護師

3. 会場 (株)まごころケア研究センター高砂2階会議室

4. 議事 (1) あいさつ（田中社長）

- ①介護保険法に年1回の開催を定められている運営推進会議を予定しましたところ、ご多忙にもかかわらずご出席いただきまして御礼を申し上げます。
- ②看護師を中心とした体制で医療的ケアを中心にサービスを提供しておりますが、スタッフの退職により、利用者数に制限をかけた形で運営を行っています。今後は、介護保険の対象者の増に力をいれていきたいと考えています。

(2) 療養通所介護の制度・概要・利用状況等（坪田管理者）

- ①療養通所介護は、難病やガン末期等の重症度の高い、医療と介護の両方のニーズを持つ方を対象にしている。
- ②既存のデイサービスを利用できない個別の看護・医療的ケアが必要な方を対象にしている。
- ③そうした観点から訪問看護ステーションと一体的な運営を行っている。
- ④地域との連携や運営の透明性を確保するために運営推進会議を設置し、併せて安全サービス提供管理委員会も年2回開催している。
- ⑤既存のデイサービスとの違いは、利用者の自宅から自宅までが、サービス提供時間となっている。

- ⑥看護師の配置や個別の送迎、入浴について加算が設定され、医療面でのケアが重視されている。
 - ⑦こういった性質上、看護師中心のスタッフ体制となっており、そのサポートを介護スタッフが行う形となっている。
- (3) 利用状況報告～介護保険対象（坪田管理者）
- ①現視点で2名の利用となっている。
 - ②いずれも重度の障害を持っておられ、吸入・吸引・注入・酸素・浣腸等のケアを行っている。
 - ③また、意思の疎通方法も文字盤利用や首の振るなどの方法となっている。
 - ④行っているケアー及び医療処置
 - ㊦気管内吸引・口鼻腔吸引・吸入・低圧持続吸引・注入・内服（必要時頓服も）
 - ㊧人工呼吸器チェック・パルスチェック・カフアシスト（Ns 2人で行う）
 - ㊨必要時カニューレ交換・パルスの値、本人の観察を行い酸素を使用したり調整をする
 - ㊩調子の悪い方については、自宅でよりも療養室内で発見することも多く、こちらで主治医と連絡調整を行い、場合によっては、救急搬送を依頼する場合もある。
（その場合、病院まで看護師が同乗し、病院で家族に引き継ぐことも多い）
 - ⑤課題
 - ㊦スタッフが長続きしない（スキルアップできずに辞めてしまうのでスタッフ不足に対応して利用者数を調整して事故防止に努めている）
 - ㊧地域や近隣からの福祉・介護の情報が入手しにくく、ケアマネとの連携強化が必要。
 - ㊨報酬単価が高いため、自己負担が高い。
 - ㊩老々介護も増加してきており、重症度が増すと自宅での介護をあきらめ、サ高住や施設入所になることも多い。
 - ㊰療養通所介護自体の認知度が低い

(4) サービス提供現場見学

5. 閉会

（記録 田中智（株まごころケア研究センター社長））